

郷土史への扉

市指定文化財

鹿兒島神宮宝物

陶磁器

御祭神は「天津日高彦穗穗出見尊」(山幸彦)とその妃「豊玉比売命」です。ちなみに、天津日高日子穗穗出見尊の御陵(墓)は溝辺の上床公園近くにある「高屋山上陵」です。

## 二 広大な寺領

平成二十年三月二十五日、「鹿兒島神宮宝物陶磁器」が、霧島市最初の市指定文化財となりました。今回は、鹿兒島神宮宝物陶磁器について紹介します。

## 一 鹿兒島神宮

鹿兒島神宮の始まりは大変古く、醍醐天皇の時(九二七)に編纂された『延喜式』に「鹿兒島神社」大隅五社のひとつとして載せられています(延喜式に書かれていることから「式内社」と呼ぶ)。

鹿兒島神宮の現在の社殿は、宝暦六年(一七五六)に建てられ、本殿は県内最大規模を誇っており、県指定文化財となっています。

## 三 伝来した陶磁器

鹿兒島神宮宝物の陶磁器は、中国産とタイ産の陶磁器が伝来しています。中国産の陶磁器では、浙江省の甌泉

窯で焼かれた青磁が多く残っています。青磁人物文八角瓶は陶磁器の中では一番古く、元時代十四世紀にさかのぼると思われます。特徴としては釉のかかっていない土の部分に八人の人物が描かれています。

青磁牡丹文瓶、青磁花唐草文瓶は十五世紀頃の焼物で、青磁花唐草文瓶は、高さが六十五センチにもなる大きな焼物です。

法花牡丹文瓶は景德鎮窯で焼かれたもので、法花とは鮮やかな紫や深い藍色を用いた三彩で、文様の輪郭を粘土で施しています。この焼き物は十六世紀ごろ作られました。

陶器ではタイの灰陶壺があります。肩の部分にスタンプで象の文様を施しており、大変珍しいものです。ちなみに完全な形をした灰陶壺は全国で2例しか見つかっていません。この焼き物は十五世紀ごろ作られました。

## 四 複製された陶磁器

鹿兒島神宮には、伝来した陶磁器をそっくりに真似た「写し」が存在します。写しはすべて十九世紀に薩摩で作られたものです。

これは、薩摩藩主島津斉彬が集成館事業の一環として作らせたものと言われており、瓜二つの写しは当時の薩摩の陶工たちの高度な技術が伺えますし、

一对のものは一对に作るというように、数量まで合わせているのは、大変に興味深いことです。このように、鹿兒島神宮の宝物は、鹿兒島神宮の歴史や当時の交易、さらには集成館事業の内容を知るうえで大変貴重なものとなっています。

(文責：鈴)



青磁牡丹瓶 (写し)

青磁牡丹瓶



灰陶壺 印文 (写し)

灰陶壺 印文

※陶磁器とは、陶器と磁器のことです。